

## 神西プロジェクト ～学部発大学ブランド農産物の地域社会普及～

門脇正行・小林伸雄・伴 琢也・安田 登・土本浩之

### 目 的

大学は、法人化後の置かれる状況の変化から、これまで以上に地域社会への情報発信をする必要がある。情報発信の手段の一つとして、大学での研究の成果を大学ブランド商品として確立し、発表、普及および販売することが挙げられる。現在、生物資源科学部では芋焼酎「神在の里」とハマダイコンの選抜系統「出雲おろち大根」のブランド化を進めている。

そこで本プロジェクトは、サツマイモおよびハマダイコンの最適な栽培技術を確立するとともに、その成果を学会や地域住民に広報することで、本学部発の大学ブランド商品をさらに発展させ、普及することを目的として行った。

サツマイモでは、施肥条件が収量および品質に及ぼす影響について検討した。ハマダイコンについては、市販の栽培ダイコンと生育特性について比較した。また、大学開放事業「楽しい作物収穫体験」の実施、「2008生涯学習フェア in 松江」への参加および学会や発表会への参加によって普及活動を行った。

### 成 果

サツマイモでは、施肥条件が収量および品質に及ぼす影響について検討した結果、窒素施肥量の多少が収量および食味を変化させることを明らかにした。窒素施肥による収量および品質の向上は芋焼酎の生産および品質に

も影響するものと考えられるため、本結果は今後の「神在の里」の生産・普及に対して有意義なものと考えられる。

また、ハマダイコンにおいては、生育特性について市販されている栽培ダイコンとの比較を行った。可食部となる地下部の肥大特性を確認することができた。肥大特性の解明は今後ハマダイコンが生産現場あるいは市場へ普及する上で重要である。以上、本プロジェクトの研究によって、「神在の里」および「出雲おろち大根」の研究・普及をより発展させていく上で、重要な知見が得られた。

普及活動は、大学開放事業「楽しい作物収穫体験」、公開講座「サツマイモを味わってみよう！」の実施や「2008生涯学習フェア in 松江」への参加を通して行った。参加した一般市民に対してハマダイコンおよびサツマイモについての講義、収穫体験および食味体験などによって大学での研究について広報するとともに大学ブランド農産物である「神在の里」および「出雲おろち大根」を宣伝した。参加者からは農場の場所あるいは大学での研究内容について初めて知ることができたとの感想があった。大学ブランドを通して学部を地域住民にPRするというプロジェクトの目的の1つが十分に果たされたものと考えられる。今後は今回作製した「神在の里」と「出雲おろち大根」を紹介するパンフレット（第1図）を活用し、さらなる普及を行う予定である。



第1図 「神在の里」および「出雲おろち大根」のパンフレット